

# 久喜市議会

## 平成23年6月定例会

### 市政に対する質問通告

第1日目	質問予定議員(発言順)
6月9日(木)	①井上忠昭 議員 ②木村奉憲 議員 ③富澤孝至 議員 ④渡辺昌代 議員 ⑤齋藤広子 議員 ⑥石川忠義 議員 ⑦山田達雄 議員 ⑧岡崎克巳 議員
第2日目	質問予定議員(発言順)
6月10日(金)	①田村栄子 議員 ②杉野 修 議員 ③春山千明 議員 ④石田利春 議員 ⑤松村茂夫 議員 ⑥戸ヶ崎博 議員 ⑦内田 正 議員 ⑧矢崎 康 議員
第3日目	質問予定議員(発言順)
6月13日(月)	①盛永圭子 議員 ②梅田修一 議員 ③猪股和雄 議員 ④鎌田忠保 議員 ⑤宮崎利造 議員 ⑥大鹿良夫 議員 ⑦足立 清 議員
第4日目	質問予定議員(発言順)
6月14日(火)	①大谷和子 議員 ②園部茂雄 議員 ③鈴木精一 議員 ④青木信男 議員 ⑤並木隆一 議員 ⑥鈴木松蔵 議員 ⑦上條哲弘 議員



# 【第1日目 6月9日（木）】

## ① 井上忠昭 議員

### 1 防災体制について。

3・11東日本大震災では、久喜市も、震度5強の揺れを観測した。

#### (1) 久喜市の震災対応について、以下の点について伺う。

ア 震災発生からの久喜市防災無線のあり方、特に当日分（発生直後）の放送内容、あり方についての検証。（※学校の下校部分も含む）

イ 緊急地震速報を、全国瞬時警報システム（J-ALERT）を用いて、防災無線で流している自治体もあり、今回評価もあったと聞けるが、久喜市は導入予定があるか。メリット、デメリットについてどのように把握しているか。

ウ 職員による市内巡回6班体制について、当日どの程度市内の被害状況を把握できたか。把握することが可能だったか。

エ 行政区、自主防災組織、消防団などどう機能したか。市はどうその組織を活用したか。

オ 災害時の職員の意識について。また各部署が混乱なく機能を果たしたかなどについて。

カ 市役所の連絡体制について（電話が使えない状況下の連絡状況、情報の集約について：内部・外部共）。

キ 小、中学校の帰宅、下校のあり方について（各校の状況と最終帰宅児童、生徒の時間なども含む）。

またゆうゆうプラザの土曜日講座など、学校事業外で震災が起こった場合の対応検討についてもここで伺いたい。

ク 避難児童生徒の心のケアをどう考えるか。

ケ 公民館など公共施設に備えておく器具を見直すべきだが（例：ブロックや瓦の公道への倒壊、切断された電線などの応急処置ができるもの、ポールやコーン、赤い布（きれ）など注意喚起ができるものなど）。

コ 職員用防災メールの情報の少なさ（緊急用）は、こうした状況下問題ではないか。そもそも防災メールを2重にする意味はなにか。

#### (2) 久喜市の当日対応以外の部分、自主防災組織や被災地・避難所について。

ア 自主防災組織について伺う。

新規の組織を作り、組織率を上げるには今しかないと考えるが、今後の対応は。

イ 女性の防災リーダー育成について。

避難所では、女性ならではのニーズが多くあると聞く。それに応えるためには、「普段から女性の防災リーダーを養成しておくことが重要」との意見（南三陸町）があった。久喜市の取り組みや考えはどうか。

ウ 職員の現地派遣について、もっと積極的に考えるべきではないか。災害時応援協定自治体以外には、積極派遣は難しいか。

エ 災害時応援協定自治体については、（距離的条件等を考え）検討が必要と考えるがいかがか。

## 2 ことばの教室について。

現在、小学校児童を対象に、青葉小学校、栗橋小学校において通級指導教室「ことばの教室」が行われているが、これをさらに進めて、就学前の幼児を対象にした「ことばの教室」が考えられないか。この時期はことばを習得するもっとも大切な時期であり、要望も多いと聞く。これを前提に、以下の点を伺う。

- (1) ことばの遅れがみられる幼児に対する現在の対応状況は。
- (2) これを発展させ、集団として取り組むことは可能ではないか。(市立保育園、市立幼稚園、保健事業としてなどが考えられると思うので、それぞれの担当部門の考えも聞きたい。)
- (3) 上記、小学校の通級指導教室「ことばの教室」の現在の状況(通級状況)について伺う。
- (4) 小学校のことばの教室に参加するには、授業、特に国語の授業を抜けて行くことに、授業の「遅れ」などを不安視する声があると聞く。現状と対応、対策などについて示されたい。

## 3 医療問題について(特定療養費について)。

久喜総合病院が出来て2カ月が経過したところであるが、病病、病診の連携を含め、なぜ紹介状が必要なのか、特定療養費とはなにか、など市民の方々に届いていない点が多々見受けられる。地域連携支援病院を目指し、また地域の医療を守り、医療崩壊を起こさないためにも、十分な広報活動が必要と考えるが、市の取り組み、考え、今後の対応などについて改めて示されたい。

## 4 県道春日部・久喜線に関連する矢印信号機、標識など設置要望について。

- (1) 上早見交差点、矢印信号機の要望について。  
県道春日部・久喜線と県道さいたま・栗橋線の交差点、春日部・久喜線側に矢印信号が設置されていないために、交通量から不便があると思われる。設置を要望すべきと考えるが。
- (2) 都市計画道路杉戸・久喜線と久喜市道9148号線交差点について、「交差点注意」の標識が設置されたものの、一時停止がない。要望すべきと考えるが。

## ② 木村奉憲 議員

### 1 福島第一原発事故による放射能の現状と今後の対応について。

福島第一原発事故の災害は「安全神話」のもと、警告を無視して安全対策を怠ってきた東京電力と歴代政府によってもたらされた「人災」である。「レベル7」、炉心溶解(メルトダウン)など現在も事故拡大が進み、深刻な実態である。「収束」(冷温停止状態)は来年以降である。原発の放射能などに関するあらゆる情報を公開し、対応に知恵と能力の総結集が必要である。とくに放射能の拡散と汚染データを正確にすみやかに、継続的に国民、県民、市民に伝え、独自調査、公開、対策をすべきである。また今後の再生可能エネルギーについて、以下質問する。

- (1) 福島原発の放射能の拡散と汚染の実態をどのように認識しているか。
- (2) 県と市の大気中の放射線量、データの公表についての経過とその数値をどのように分析しているか。
- (3) 保育園、幼稚園、小中学校のデータ測定、公表、測定器の購入もし、継続的にすべきではないか。

- (4) 市内の水質(浄水場、河川、地下水)土壌(保育・幼稚園・学校・公園)農産物などへの測定、調査を実施すべきではないか。
- (5) 今後の原子力行政、エネルギー政策を抜本的に見直すべきで、久喜市の太陽光発電など再生可能エネルギーへの対応と目標は。

## 2 東日本大震災の被災対応について。

東日本大震災の久喜市内の被災は、南栗橋の液状化をはじめ、家屋、道路、屋根瓦、塀など多方面にわたっている。公的な道路や下水道など改修や復旧が行なわれている。しかし、まだ改修が必要な箇所や、個人、民地などの被災に対してもなんらかの支援(見舞金)が必要であるので、以下質問する。

- (1) 道路や公園などの復旧の現状と、今後の改修が必要な箇所への対応は。
- (2) 屋根瓦、ぐし、塀などの被災現状とそれへの支援金を。
- (3) 全市へのパトロールでの補修箇所把握と市民からの通報制度でより細かな把握対応を。

## 3 災害に強い久喜市をめざし、新久喜市の液状化マップ作成と今後の対策について。

旧一市三町で、液状化マップを作成、公表している自治体と、作成してこなかった自治体がある。今後は、新市としてのよりきめ細かなマップ作成と今後の対応が必要なので以下質問する。

- (1) 久喜市と鷲宮町の公表経過とその他の町の認識と現状は。
- (2) 液状化、軟弱地盤、断層などの公表をすべきだが。
- (3) (2)にもとづき、基準をもうけ、長期的な改善対策をすべきだが。

## 4 久喜市総合振興計画策定基本方針と市民意識調査結果報告書について。

ことし3月新市の合併後のまちづくり基本方針を定める「久喜市総合振興計画」を策定するために、市民意識調査結果報告書を3月にまとめた。この結果をどう分析し、どのように反映していくのかについて、以下質問する。

- (1) この調査の目的と「久喜市総合振興計画」や新市の基本方針にどのように具体的に活用し、反映していくのか。
- (2) 調査結果の特徴と主な内容についてどのように認識し、改善・充実させる予定なのか。
  - ア 住みよさについて(住みにくい理由)。
  - イ 健康福祉について(不満な点)。
  - ウ 少子高齢化社会(充実、促進すべき点)。
  - エ 市政全般で充実してほしいもの。
  - オ 工業に対し、今後力を入れること。

## 5 社会保障制度「改革案」による負担増とその影響について。

5月12日に開かれた社会保障と税の「集中検討会議」(議長・菅直人首相)の議論のたたき台として、厚生労働省が社会保障「改革案」を提示した。この案によると歴代自民党政権がすすめてきた社会保障の抑制策をいっそう進めようとしている。医療、介護分野では「給付の重点化」や「公平な負担」の名の元に給付の縮小や患者負担増を図り、生活保護では受給基準を検証し、削減の方向を打ち出している。市民の社会保障を充実させる必要があるため、以下質問する。

- (1) 介護保険法「改革案」の「介護予防・日常生活支援総合事業」は市町村任せのサービスに置き換え、質や利用者の意向が軽視されるのではないか。また、介護療養病床廃止は医療・介護・生活を奪うものではないか。
- (2) 生活保護の久喜市の最新状況と受給基準を「検証」し、削減する方向は問題ではないか。
- (3) 社会保障の基本理念と今後の久喜市の在り方はどのように考えているのか。

### ③ 富澤孝至 議員

#### 1 圏央道の開通に伴う、白岡菖蒲インターチェンジ周辺の乱開発及び対策。

- (1) 平成20年1月の「圏央道IC周辺地域の乱開発抑止に向けた共同宣言」から開通までの乱開発の状況は。
- (2) 河原井地区の産業廃棄物及び残土の違法埋め立ての、その後の経過状況について。

#### 2 環境・自然エネルギーを、市としても真剣に考えるときである。

- (1) 夏の電力不足の対応として市の公共施設への対応と職員への意識改革を進めるべきだが市の考えは。  
また、市民に対して市独自の啓発活動や、施策を考えるべきであるが市の考えは。
- (2) 全国規模で「自然エネルギー協議会」が設立した。  
埼玉県は用地を模索中であるが、久喜市も名乗りを上げるべきだが市の考えは。

### ④ 渡辺昌代 議員

#### 1 防災に強い街づくりについて。

3月11日発生した東日本大震災では、未曾有の被害をもたらした。阪神、淡路大震災が起こった16年前頃から、新潟県中越大地震など、住民の生存基盤を破壊するような地震災害が続き、今回の東日本大震災は最大級のものとなってしまった。今後、同規模の地震がおこる可能性は否定できない。防災に強い街づくりにしっかりと取り組むため、以下質問する。

- (1) 久喜市内公共施設の耐震化の現状は、27年度までに100%完了する予定であるが、具体的計画はどうか。
- (2) 久喜市本庁舎、中央幼稚園、さくら保育園など早急な計画が必要と考えるが。
- (3) 防災無線の調査と改善はどのように進めるのか。
- (4) 耐震改修促進計画の中で、耐震改修にも久喜市独自補助をつけるべきと考えるが。
- (5) 住宅リフォーム制度を創設するべきでは。
- (6) 防災倉庫の備蓄品などの再点検について。また、自主防災組織への助成の増額をすべきでは。

2 清久工業団地周辺地域の開発について。

清久工業団地周辺地域では、既存の工業団地周辺の樹木を伐採して様子が変わってきている。これから進める行程について以下質問する。

- (1) 伐採した樹木はどうなるのか、利用方法は。
- (2) その後工業団地周辺にできる樹木の管理はどうなるのか。
- (3) 公園ができる予定であるが、その管理はどうなるのか。防災に対応できる公園にしてはどうか。
- (4) 農業用水の流れがずいぶん変わると思うが、さくら通りをはさみ、右、左、どのようになるのか。雨水とのかねあいは。

## ⑤ 齋藤 広子 議員

1 緊急時通報システム事業のサービス向上について。

- (1) 2012年介護保険法が改正される。その中で目玉と言われている24時間随時対応サービスは、いつまでも住み慣れた地域（自宅）で安心して暮らし続けたいという高齢者の願いに応え得るサービスであると思う。久喜市としてどのように推進されていくのか伺う。
- (2) 現在の緊急時通報システム事業は、コールボタンを押すと状況確認をして必要であれば救急車を呼ぶというサービスである。来年度の法改正に合わせて、介護保険の給付対象者には、転倒や転落、排泄の失敗などコールボタンを押せば確実、敏速にヘルパーが来てくれる24時間随時訪問サービスに移行できるようなくみ作りは、できないか。

2 東日本大震災から3ヶ月、教育現場は、どう子供達に関わっていくのか。

- (1) 教育委員会は、この震災をどう教育にとりいれて行くのか。また、学校は、どう変えてきているのか。
- (2) この震災を通しての体験をこれからの成長に生かしていくため、また風化させない為に、子供の視点を大切に、作文として残していく事が大事であると思うが、どうか伺う。
- (3) 3月11日の震災時、市内の学校の数カ所は、引渡しを円滑にできずに生徒だけを帰宅させてしまった事実を踏まえ、今後の改善策や学校の危機管理体制の徹底は、できているのか。

3 この夏の節電 15%削減の市の取組は。

- (1) 今までも久喜市は、ISO14001国際標準化機構の国際規格に対し取り組んで来たが、更なる15%節電をどう取り組んでいく計画なのか。またそれにより、市民サービスの低下を防ぐ工夫は、どのように推進されるのか。
- (2) 節電できた家庭にポイントや特産物、商品券などを差し上げ、評価する事業が各自治体や民間事業者などで推進されているが、久喜市に於いては、どう市民を15%節電に巻き込んでいくか、楽しみながら節電できるように、顕彰して行くことを考えているのかどうか、伺う。

#### 4 総合窓口化の対応について。

- (1) 現在、総合窓口化を目指して、どのようなサービス提供を行っているのか。
- (2) 市民へのサービスとして、関連する課の窓口一体化ができないか。
- (3) フロアマネジャーを作って、相談のアドバイスができないか。

#### 5 子ども医療費無料化（通院）拡大について。

現在久喜市では、小学校卒業まで医療費の通院費と中学卒業までの入院費が無料になっているが、少子化対策として、若い方に久喜市に住んで頂く為にも、通院費の無料化も中学卒業まで拡大出来ないか伺う。

### ⑥ 石川忠義 議員

#### 1 久喜駅周辺の商業活性化策を強く推進すべきであるが、考えを伺う。

- (1) 合併以前には、駅東口買い物客用駐車場の整備が進んでいたが進捗が不透明である。進めるべきであるが、経過と予定を伺う。
- (2) 東口大通りの駐車スペースの利用時間拡大がかねてから要請されているが、一向に改善されていない。関係機関に粘り強く要求すべきであるが、これまでの経過と予定を伺う。
- (3) 駅西口では、まちづくり交付金事業によるバスターミナルの設置ができなかった。バス利用者の利便向上と地元商店街への集客のために市として再考し、実現に向けて努力すべきであるが考えを伺う。
- (4) 駅西口商店街では、商店街などと協力し、安心して歩いて買い物ができる空間や機会を設けるべきであるが、考えを伺う。

#### 2 今後、特別天然記念物コウノトリが飛来できるような、人と自然にやさしいまちづくりを強く推進すべきである。

今年度、久喜市は「コウノトリ・トキ舞う関東自治体フォーラム」にも加盟した。これを踏まえて、今後の久喜市の具体的な取組みを伺う。

- (1) この構想を推進するには、農業者の協力が不可欠である。農政としてどのように取り組む予定か考えを伺う。
- (2) この構想を推進するには、環境経済部内の各課による連携と環境経済部と他部との連携が不可欠である。連携のための連絡調整を強化すべきであるが、考えを伺う。
  - ア これまでの他部との連絡調整の実績。
  - イ これまでの部内各課との連絡調整の実績。

#### 3 県道杉戸久喜線の安全対策を強化すべきであるが、市の考えを伺う。

- (1) 県道杉戸久喜線開通に伴う交通量は、どのように変化をしたか現状を伺う。
  - ア 県道杉戸久喜線。
  - イ 県道杉戸久喜線と接する地域。
- (2) 児童の通学路となっている交差点には、ガードレールを設けるように強く県に要望すべきであるが、考えを伺う。

(3) 県道杉戸久喜線と接する市道を走行する自動車が増えた。安全対策を強化すべきであるが、考えを伺う。

4 災害時の市民への情報提供体制を確立すべきであるが、いかがか市の考えを伺う。

(1) 東日本大震災時には、市から市民への情報提供が万全とは言えなかった。災害対策本部の会議には広報広聴課を同席させたり、同課が庁内外の情報把握を積極的に行って24時間体制で正確な情報を迅速に流せるようにすべきである。いかがか考えを伺う。

(2) 震災後、すぐに地元を知る区長を集めての情報交換や情報収集をすることがなかった。改善すべきであるが、考えを伺う。

5 介護予防の観点から、第1号被保険者(65歳以上の被保険者)によるボランティアを基本としたサポーター制度を創設すべきであるが考えを伺う。

(1) 現在の65歳以上の市民のボランティア活動状況を伺う。

(2) 第1号被保険者の介護予防メニューに取り入れることで、サポーターを受け入れる側、サポーター両者にとってのメリットが大きいと考えるが市の考えを伺う。

## ⑦ 山田達雄 議員

1 東日本大震災関係。

(1) 南栗橋液状化問題。

ア 元々が池沼であったとは。

イ 行政の責任論を問う声があるが。

ウ 「罹災証明の認定基準の見直し」や「被災者生活再建支援法」の運用拡大に向けた今後の運動方針は。

エ 市独自の被災者支援について。

オ 今後想定される被害発生予測について。

(2) 液状化現象以外での震災被害について。

ア 一般家庭への被害状況は。

イ ガス、農業用施設等への影響は。

ウ これ等に対する支援・救済措置は。

(3) 福島原発問題。

ア 当市における空中放射能汚染状況、その測定位置について。

イ 学校、幼稚園等における測定位置。

ウ 校庭、園庭等における放射線量は。

エ 水道水の安全性について。

オ 市内農産物の放射線量の調査は。

カ 各クリーンセンターにおける焼却灰、汚泥等の調査は。

## ⑧ 岡崎克巳 議員

### 1 電力対策について。

経済産業省は5月25日、東日本大震災に伴う電力不足に対応するため、東京電力と東北電力管内で15%の節電を求める対策を発表した。大口需要の工場などは7月1日から使用制限を発動するが、病院や鉄道は制限を緩和し、被災地は適用除外となる。また、企業が共同で削減目標を達成する柔軟な仕組みも導入した。制限対象にならない小口事業者や家庭は、自主的な節電が強く求められている。

(1) 節電対策に市はどのように取り組むか伺う。

- ア 市民。
- イ 事業者。
- ウ 市。
- エ LED推進計画。

(2) 発電対策（太陽光発電など）は積極的に取り組む必要があるが、市の考えを伺う。

- ア 住宅の太陽光発電の補助額と人数の拡大。
- イ 事業者への太陽光発電の設置の推進。
- ウ 全公共施設への太陽光発電の設置。
- エ 広域による太陽光発電の発電事業。

(3) 電力停止が起きた場合、市はどのように取り組むか。

### 2 道路整備について。

(1) 杉戸・久喜線西側の市道久喜211号線との交差点工事の見通しと、市道久喜211号線の完成の見通し。

(2) 圏央道側道の整備スケジュールと市道久喜7200号線延伸による側道への接続。

## 【第2日目 6月10日（金）】

### ① 田村 栄子 議員

1 東日本大震災後の災害対策並びに防災計画について。

(1) 情報収集と伝達。

ア 職員全員に対する連絡方法とその問題点は。

イ 本庁と各支所との連絡は。

ウ 久喜市全体の被害状況の把握の迅速さに問題はなかったか。

(2) 被害状況把握後の対応は。

ア 交通機関：鉄道、バス等の停車駅での帰宅困難者の対応は。

イ 久喜市全体の被災状況の情報収集後の対応は。

ウ ブルーシート配布の放送後の結果は。

エ 家屋の特に瓦の破損件数、破損範囲等で自助努力では困難な世帯の救助策の考えは。

(3) 地震直後の初動体制はどうか。問題と今後の課題を問う。

2 南栗橋地区の液状化の被害について。

南栗橋地区の液状化の被害は電柱の傾き、上下水道の破損、家屋の傾きと潜り込み等の被災から自助努力の限界を遙かに超えた状況である。公的支援の必要性があるが、久喜市として県、国への災害支援要請の今後の覚悟を伺う。

(1) 電柱、道路、上下水道の復旧状況は。

私有地内の電柱はどのような扱いになるのか。

(2) 液状化で家屋の損壊に対する罹災証明の現状は。

(3) ボウリング調査並びにサウンディング調査の結果を原因調査だけで終わらずに、今後、二度と今回のような問題が生じないように技術・法整備に生かすべきである。結果の生かし方をどのように考えておられるか。

(4) 公的支援を強力に押し進めていただきたい。

5月29日の読売新聞によると田中市長が国へ要請書を提出したとあったが、今後も国に対して強力に支援要請を続けるべきだ。また、全壊家屋は無くても大規模半壊が数十世帯もあり、傾きの度合いがほとんど全壊家屋と変わらず頭痛やめまいが起り、とても人が住める物ではないのが現実である。久喜市としては、被害調査の基準の弾力的な見直しをどこまで強く要請されるか、伺う。

(5) 義援金は地元久喜市内被災者に還元できるように仕組みづくりを行うべきである。考えはどうか。

震災による義援金は公的機関を通じて被災地に送られるが現状では配布が遅い。また広汎な地域に分散される。さらに久喜市内の地元への還元ができていく仕組みになっている。久喜市として独自の義援金集めの方法をたて条例化するなどして、市内の被災者に行き渡るようにすべきと考える。

### 3 防災計画について。

- (1) 防災ハザードマップは栗橋地区と菖蒲町地区にも必要と考えるが、作成予定は。
- (2) 久喜市全体の防災ハザードマップの見直しは。
- (3) 高齢者や障がい者用の防災ハザードマップは。
- (4) 今後の震災にかんがみ、現在の問題点と防災計画の見直し上の課題を問う。

### 4 障がい者就労支援について。

久喜地区の「ぬくぬく」、鷲宮地区の「コスモス」と同様の栗橋地区の「喫茶サルビア」について伺う。

喫茶サルビアは久喜市栗橋コミュニティセンター内の面積15.6㎡を使用し、障がい者就労支援を目的とした喫茶店で、知的障がい者、身体障がい者、精神障がい者の3つの団体が合同で営業している。この度この障がい者団体へ新たに光熱水費の請求があったが、その根拠等が不明確なので次の関連質問をする。

- (1) 喫茶サルビアの位置づけはいかがか。また担当部署はどうかを伺う。
- (2) サルビア運営委員会の設立はいつか。
- (3) 当委員会と喫茶サルビアとの関係は。
- (4) 当委員会の構成メンバーとその人数、構成メンバーの中に喫茶サルビアの方は何人か。
- (5) 当委員会での議題の決め方は。
- (6) 当委員会の設立以来何回開かれ、その時の議事録の公開を願う。
- (7) 喫茶サルビアへの光熱費等費用請求の基準・ルールはどうか伺う。
- (8) 久喜市内の「ぬくぬく」と「コスモス」の光熱水費はどのような扱いになっているのか。また、その他にも同様の営業をしている施設の光熱水費はいかがか。

### 5 東京電力福島第一原発の事故に伴う放射性物質による汚染および省電力について。

東北地方太平洋沖地震により福島第一原発が甚大な被害を受け、様々な影響を受けているところであり、久喜市においても停電その他の影響があったが、今後の対応に関し次の質問をする。

- (1) 久喜市内での放射線量測定結果が公表されているが、原発事故直後からの放射線量の変化はいかがか。
- (2) 久喜市内で測定されているが、測定器種・方法について伺いたい、また測定器の測定精度（不確かさ）はどの程度か。校正証明は取られていると思うが、校正証明書における精度はどのくらいか。トレーサビリティはいかがか。
- (3) 今後の久喜市の省電力（節電）およびエコ活動の予定（課題と計画）はいかがか。

## ② 杉野修議員

### 1 ルールあるまちづくりについて。

市内鷺宮地区において、産業廃棄物の埋め立てに関する事案が浮上している。「違法」状態を未然に防止する観点から行政の的確な対応を求める。

- (1) 指摘の事案に関して現段階で行政が係わっている事実について伺う。
- (2) 今後、農地転用や建築許可などの申請が出されていく中では、産業廃棄物が出た場合、関係機関との連携など手続きについて伺う。
- (3) 一般廃棄物、産業廃棄物の不法な投棄、埋め立てを未然に防止する対策について伺う。

### 2 久喜市地域防災計画について。

未曾有の被害をもたらした東日本大震災であるが、我々に課せられた責務は、被災地への救援・復興に全力を尽くすことである。同時にこの大震災からすべての教訓を学び、汲み尽くして災害時のリスクを最小限に留めることである。

- (1) 「地域防災計画」の概要と進捗状況を伺う。
- (2) 災害予防策として「液状化対策」、「放射能対策」はどのように位置付けられているか伺う。
- (3) 現在進行中の計画素案に東日本大震災から何をどう生かしていくかが問われている。今後の見通しを伺う。

### 3 鷺宮地区での駅前整備について。

鷺宮地区の2駅の駅前整備に関しては市民、利用者から様々な要望が寄せられている。合併後のまちづくりに生かしていただきたい。

- (1) JR東鷺宮駅西口にトイレの設置を。
- (2) 東武鷺宮駅西口前の公園ベンチの整備と、公園から青毛堀川沿いの遊歩道のデコボコ改修を。

### 4 水道料金統一のありかたについて。

合併後2年以内に統一をめざす水道料金は、行政事務局の意向に沿った答申が審議会から出されようとしている。市の主な公共料金のひとつである水道料金が今より値上げの方向である。

- (1) つぎの各分野での資本報酬率2.4%に至ったそれぞれの「必要性」を伺う。
  - ア 浄水場の統合・廃止計画。
  - イ 石綿管更新などインフラ整備計画。
  - ウ 県水100%・地下水0%の計画。
- (2) 同じく上記ア、イ、ウの「計算根拠」を伺う。
- (3) 地下水は災害対策としても必要。残すべきではないか。
- (4) 今でも高い上でのさらなる料金値上げは住民の暮らしを圧迫する。再度の熟慮を強くもとめる。

### ③ 春山千明 議員

- 1 防災教育は、自分の身は自分で守り、さらに守られる側から守る側にもなれるような教育を久喜市内小中学校は実践するべきであるが、いかがか伺う。
  - (1) 現在の久喜市内小中学校で行われている防災教育の内容を伺う。
  - (2) 「いざ」と言う時にどのような行動をし、実行するべきか、しっかりとした判断ができるようにすることが「生きる力」を養う教育の基本だと考えるが、いかがか伺う。
    - ア 現在、災害時などに的確かつ創造性ある判断力を養う防災教育は、具体的にどのように行っているのか伺う。
    - イ また今後の計画があるのか伺う。
  - (3) 久喜市内の小中学校児童生徒が、PTA、地域住民や多くの団体などと連携する地域防災訓練などを実施し、地域防災力の向上に取り組むべきであるが、いかがか伺う。
  - (4) 「助けられる人」から「助ける人」への防災教育として、災害弱者への支援もできるような教育は、子どものころから養うべきと考えるが、いかがか伺う。
- 2 今回の震災を受けて久喜市内小中学校及び幼稚園の耐震化を計画よりも早急に進め、さらに地震で影響のあった校舎等は安全性を確認し、しかるべき対応をするべきであるが、いかがか伺う。
  - (1) 現段階で耐震補強工事の必要な市内小中学校及び幼稚園は早急に進めるべきであるが、いかがか伺う。
  - (2) 震災後、耐震補強済み、また耐震補強の必要がなかった校舎等にもあちらこちらにヒビが入ったり、外壁が落ちた箇所があった。安全性を確認後、必要に応じて補強、修繕をするべきであるが、いかがか伺う。
- 3 新学習指導要領による学習が始まり、学習内容が大幅に見直された。多くの時数を確保しなければならぬ状況だと考える。そこで土曜授業を復活させるべきと考えるが、いかがか伺う。
  - (1) 久喜市内小中学校において、新学習指導要領の本格実施により、日々の学習時間数が今までとどのくらい違ってきたのか伺う。
  - (2) 全国的にみても土曜日の授業を復活させ、その時間を平日には難しい体験学習の時間や総合的な学習の時間として活用している自治体もある。通常の授業だけでなく、体験学習の時間にするなど、土曜日を有効的に活用するべきと考えるが、いかがか伺う。
  - (3) 今後、久喜市の教育として学期制を再考するとともに、土曜授業の検討もしていく時期にきていると考えるが、いかがか伺う。
- 4 市内小中学校の校庭スプリンクラーは埃防止、また真夏の熱中症対策など多くの効果がある。設置を検討すべきであるが、いかがか伺う。
  - (1) 久喜市内小中学校の校庭スプリンクラーが無い学校はどこか伺う。
  - (2) スプリンクラーの無い学校には設置をしていくべきであるが、いかがか伺う。
  - (3) スプリンクラーを設置するまでの間、防災井戸を有効に活用し、特に夏場はその水を校庭や花壇などに散布するべきと考えるが、いかがか伺う。

- 5 登校時の交通指導員の配置は学校の要望に答えていくと昨年の決算委員会で確認されている。今年度の配置箇所数などはどのように検証され、配置をしてきたのか伺う。
- (1) 子どもたちの登校時の安全は交通指導員以外に保護者や地域のボランティアに支えられている。しかしそれでもどうしても不足しているところは市が責任をもって子どもたちの安全を守らなければならない。市はこうした観点に立ってどのように交通指導員の配置を検討してきたのか考え方を伺う。
- (2) 交通指導員の配置は特に危険個所において、毎日配置するなど通学時の安全をさらに確保していくべきと考えるが、いかがか伺う。
- (3) 登校時の交通指導員の配置は地域により配置数等格差がある。久喜市の事業としてしっかりと対応をするべきである。学校や保護者、地域の意見を聞くことは当然のことで、久喜市は市内全体を把握し、子どもたちの通学時の安全をさらに確保していかなければと考えるが、いかがか伺う。
- 6 さくら保育園の建築を急ぐべきと考えるが、現在の建築計画とその進捗を伺う。

#### ④ 石田利春 議員

- 1 南栗橋地域の液状化による被害について。
- 東日本大震災は、地震・津波などによる被害とともに、地元久喜市南栗橋地域では液状化現象が起き、大変大きな被害が出ている。液状化による被害は、家屋の傾斜とともに地盤沈下という二重の災害ともいえる状況がある。被災された住民の皆さんの生活再建に向け、市の取り組みを伺う。
- (1) 埼玉県の中でも際立って大きな被害となった南栗橋地域の被害状況はどうか。又国の被災認定基準、見直し前と後でどう変わったか。
- (2) これまで行なわれて来た説明会において、質疑された住民の声をどのように受け止め、対応して来たか伺う。
- (3) 今回の震災は大規模なものであり、今までの枠を超えた支援策が求められる。生活再建に向けた支援で、国、県などの公的支援はどうか。
- (4) 液状化被害が発生した地域は、県が事業を進めていた権現堂の砂をいれ旧栗橋町が区画整理事業を施工し宅地として分譲した地域である。区画整理事業を実施した旧栗橋町の責任をどう考えているか。
- (5) 被災された住民の皆さんへ久喜市独自の支援が必要不可欠である。どのような支援策を考えているか伺う。
- ア 被害認定を数値に基づき決定することはどうか。
- イ 被害に応じた基礎支援はどうか。
- ウ 家屋被害に応じた再建支援はどうか。
- エ 地盤改良に向けた支援はどうか。
- オ 私有地内における、下水復旧に向けた支援はどうか。
- カ 道路復旧で発生する私有地との段差などの対策は。

キ 住宅ローンを抱えた市民への助成策はどうか。

ク 被害認定で国の支援対象とならない被災者への支援策は。

ケ 国の「社会資本整備総合交付金」を取り入れた対策は。

(6) 今後の久喜市南栗橋地域における「安全安心の街づくり」を再構築しなければ新たな発展は厳しい。今後の街づくりをどのように考えているか。具体策を伺う。

ア 地盤調査から今後宅地としての地盤、インフラ整備で、どのような手立てが必要と判断しているか。

イ 宅地防災マニュアルを徹底して取り入れる必要があると考えるが、今後の取り組みは。

ウ 南栗橋12丁目ふれあい橋の修復はどのように考えているか伺う。

(7) 液状化による被災を受けた家屋や地盤など、固定資産税の評価はどのようになるのか。

(8) 避難されている方の状況と生活支援にむけた取り組みはどうか。子ども達の通学支援として送迎バスなど考えるべきでは。

## 2 国民健康保険税統一について。

国保税は高く払いきれない、引き下げてほしいという市民の声が高まる中、国保税の統一に向け、国保運営協議会で審議がすすんでいる。統一に向けた市の取り組みを伺う。

(1) 国民健康保険法の第一条には、「国民健康保険事業の健全な運営を確保し、もつて社会保障及び国民保健の向上に寄与することを目的とする。」となっている。協議会委員の中には、国民健康保険制度は、相互扶助と考えている委員もいる。国民健康保険法は社会保障であることを共通認識にすべきと考えるがいかがか。

(2) 国保運営協議会に出された試案は、旧久喜市の税率ですべてを保険税で賄う案が出されている。その意図は何か。旧三町の中で最も低い税率試案などを出すべきと考えるがいかがか。

(3) 国保運営協議会において、収納率の低さが議論されている。市の職員の取り組む姿勢だけでなく、収納率は国保税が高いほど悪くなる実態があることも示し、高すぎて払いきれない実態があることを示す必要があると考えるがいかがか。

(4) 試案として出された、旧久喜市の税率、平成24、25年度平均必要額を繰入する試案で実施した場合のデータを伺う。一市三町で統一前と比較するとそれぞれ、どれぐらいの金額になるか。税額が所得金額に占める比率も。(条件は平均所得・平均世帯人数の場合で)

(5) 納税は能力に応じて支払うことを基本とすべきと考えるが、国保税率改正の基本的考え方で、応能・応益割合は弾力的に考えるとなっているにもかかわらず、試案は50対50でしか出していないのはなぜか。

## 3 道路わきにある雨水溝の清掃について。

これから梅雨を迎える中、ゲリラ豪雨などにより排水ができず道路に溢れることがしばしばである。その要因の一つに道路脇の雨水溝に土が溜まっていることが考えられる。雨水溝の管理はどのようにすすめているのか伺う。

(1) 茨城県五霞町との境になる栗橋東6丁目付近の雨水溝管理はどのようにすすめているのか伺う。

(2) 雨水溝の清掃にあっては、蓋の部分を市で開閉し、中に堆積した土の部分を市民が担うなど、市民との協働による作業も考えられるがいかがか。

## ⑤ 松村茂夫 議員

- 1 久喜総合病院開院後の評価について。
  - (1) 稼働状況はどうか、当初計画に対してはどうか。
  - (2) 利用者や市民の評価はどうか
  - (3) 市との報告や意見交換はされているか。
  - (4) 医療体制等推進協議会は、地域完結型医療に向けて新病院を組み込んだ協議に入っているか。
  - (5) 新病院が十分機能するよう市もバックアップすべきであるがどんな手法を考えているか。
  
- 2 南栗橋液状化被害の救済について。

被災市民に健康被害が出ていることは、大変心痛すべきことである。責任を巡って争うようでは苦しみも倍加する。自助、共助、公助の原則に従って、全市民一丸となって救済の手を差し伸べよう。市が先頭に立って、1億円を目標額にした義捐金を市民にお願いしていただきたいかがか。数字的には1世帯2千円で目標額を超える。
  
- 3 社会福祉協議会職員の応接の高い評価について。

頑固で厳しい人から、久喜の社協は見事だ、と絶賛をいただいた。このところ他にも2人から同様の高い評価を受けたので行ってみた。確かによい。どの職員も応対が明るい、生き生きしている。

ぜひこのままこの良さを続けてほしいが、

  - (1) どうしてこうなれたのか。
  - (2) どんな心構えや努力の積み重ねをしているのか。
  
- 4 総合運動公園の多目的広場の貸し出しについて。

1団体貸し切りに行っているが、特に需要の多いグランドゴルフなどには2つか3つに区切って貸してはいかかがか。

## ⑥ 戸ヶ崎博 議員

- 1 防災対策について。
  - (1) 防災行政無線について。
    - ア 難聴区域の解消の取り組みについて。
    - イ 旧市町の特性を生かした放送は又運用の取り決め等市民に知らせることが大切ではないか。
  - (2) 防災教育の取り組みについて。
  - (3) 友好都市の災害時における協定について。
  - (4) 被災者支援システムの導入と活用について。

- 2 大震災の被害の把握と復興について。
  - (1) 南栗橋の復旧について伺う。
  - (2) 市内公共施設、特に道路、上下水道の被害についてどのように把握しているのか又復旧についてどう実施しているか伺う。
- 3 交通安全対策について。
  - (1) 県道さいたま栗橋線と県道春日部久喜線との新しくなった交差点について、右折信号の設置をすべきと考えるがどうか。
  - (2) グリーンベルトの（菖蒲寺田地区内）設置について。
- 4 公園の改善について。
  - (1) トイレのない公園については計画的に設置をすべきと考える。（特に避難所としているところなど）
  - (2) 上早見なかよし公園に特に子供の日除け対策を。
- 5 耕作放棄地の対策のために。

農地の耕作放棄地を改善するために、シルバー人材センターの力を生かしているところがあるが、久喜市でも進めてはどうか。

## ⑦ 内 田 正 議員

- 1 久喜駅西口駅前を中心とした大規模な広場や街づくり構想について、伺う。

駅前の道路を中心とした東西市街地の道路網は先人達の並々ならぬ努力と地権者の尊い財産の提供により、近年着々と整備され交通至便となった。しかしながら現在の西口駅前は一昔前の手狭な広場にあり、中央にはタクシープールが満杯と他から進入する自動車は、一時の停車もままならない現状にある。駅周辺を取巻く商店街もまばらで、今の現状はどうみても活況がない様相である。合併をして15万7千都市として、街づくりの基本を考えなければ外部からの流入人口を多く受け入れるには余りにも今の広場では狭すぎるのではないか。

一方、清久工業団地周辺整備拡大による企業誘致は今後、圏央道が全線開通ともなれば企業は益々進出してくるものと思われる。企業がくれば久喜駅からの乗降者や企業に勤める通勤用の送迎バス、路線の整備など駅前の混雑は必至である。

間もなく迎える久喜市唯一の提燈祭りは、20万人余とも言われる観光来客まで発展し、関東一を誇る勇壮な提燈祭りとなった。その勇姿が一部には見えないほどの盛況に達し、これが大きな駅前広場であったらな一と誰もが思う今の広場である。このことから市の顔とも言うべき西口駅前を中心とした大規模な駅前広場と商店街づくりが市勢発展の最重要な政策かと思うが、当局が描く街づくり構想について伺う。
- 2 北中曽根開発地域企業誘致について。

既にキッコーマン醤油の進出が決定しているが、開発余剰地については現時点で進出企業の決定はされているのか伺う。

## ⑧ 矢 崎 康 議 員

### 1 市ホームページの多言語自動翻訳サービスについて。

多言語自動翻訳サービスの導入を提案する。英語、中国語、韓国語等で如何か。市の考えを伺う。

### 2 女性の健康づくりについて。

(1) 平成23年度埼玉県は、「女性の健康週間」等女性の健康づくりに取り組んでいるが、本市の健康づくりの現状・課題・今年度の取り組みは。

(2) 各保健センターにおいて、女性の健康に対する相談件数、また内容について伺う。

(3) 流産や死産を繰り返す「不育症」患者の治療費を少子化対策の一環として又、不育症に悩む夫婦の経済的負担の軽減を目的に市独自の助成を望む。この助成についての考えを伺う。

(4) 妊産婦医療助成制度の周知・徹底を望むが、ホームページへの掲載は如何か。

### 3 久喜市液状化マップ作成について。

(1) 南栗橋地域は、液状化によって地質調査が行われている。この機会に得られたデータをもとに、液状化マップの作成に取り組んでは如何か。

(2) 住民よりこのデータは、誰がみても、理解しやすいようにホームページに掲載していただきたいという要望に、どのようにこたえるのか。

## 【第3日目 6月13日（月）】

### ① 盛永圭子 議員

#### 1 正午のチャイムについて。

旧菖蒲町で永年実施されていた正午を知らせるチャイムがあった。

農作業や外で仕事をしている人にとって、このチャイムは必要なものであった。いつの日かチャイムが消えてしまったのである。

正午を知らせるチャイムを是非とも再実施していただきたい。

- (1) なぜなくしてしまったのか。
- (2) 住民に知らせなかった理由は。
- (3) 合併協議会などで話し合っていたのか。
- (4) 住民からの苦情はないのか。

この4点について伺う。

#### 2 県道下石戸上菖蒲線に歩道の整備を。

小林小学校の北側に位置する県道下石戸上菖蒲線は通学路である。小林小学校から元荒川にかかる四郎兵衛橋までの約2キロメートルの間歩道がとぎれとぎれにある程度だ。U字溝に蓋がなく非常に危険である。

この道路は森下公民館や森下グラウンドを使用する小中学生や高齢者が利用する。この人たちが徒歩や自転車などで利用する場合交通量が多く危険である。多くの住民が要望しているが、いっこうに改善されていない。どのように考えているか伺う。

#### 3 大地震を想定したハザードマップの作成を。

平成19年12月の菖蒲町議会でハザードマップが必要であると質問した。その答弁は「ハザードマップには地域において発生の恐れのある地震の強さや液状化など、被害の可能性と避難箇所等を地図上に示して住民に伝えるものである。当町では整備されていないが早期整備に向けて検討する」との答弁であった。

- (1) 今後作成予定はあるのか。
- (2) 早急に作成すべきと思うが市の考えは。

### ② 梅田修一 議員

#### 1 青毛掘川の緊急洪水対策工事について。

久喜市では2008年にゲリラ豪雨が襲い、市内に甚大な被害をもたらした。市民の生命財産を守るために洪水対策は不可欠な課題である。特に鷲宮地域では200戸を超える民家が浸水被害を受け、対策が急務であった。一級河川青毛掘川の調整池工事の内容と進捗状況、完成までの見通しについて伺う。

2 自治体間の災害時相互応援協定について。

東日本大震災においては、被災自治体と相互応援協定を結んでいる自治体の連携の必要性が認識された。久喜市における災害発生時の自治体の応援協定の内容、今回の震災時における対応状況について伺う。

3 久喜市内における災害支援ネットワークの構築について。

(1) 大規模災害発生時には市役所職員だけでなく、市民の命を守るためには市民自らが守らなくてはならない。今回の震災における安否確認や情報伝達、復旧支援等に関して消防団自主防災組織、各市民団体とどのような連携を図ったか伺う。

(2) いつまた起きるかもしれない大災害に備えて、久喜市内においても多くの市民の皆様の協力を得ながら災害支援のネットワークを構築し、事前に役割分担を明確化しておく必要があると考えるが、久喜市としての方向性について伺う。

4 災害時の情報発信の手段としてツイッターを活用することについて。

震災発生時には電話回線が不通となり、情報の伝達が困難を極めた。そのような中、インターネットは情報の更新や発信に対して有効な役割を果たした。特に手軽に不特定多数に情報を提供できるツイッターは、自治体から市民への情報発信ツールとして活用すべきと考えるが認識について伺う。

### ③ 猪 股 和 雄 議員

1 久喜市役所をはじめとする公共施設で使用する電力を、東京電力から「特定規模電気事業者（PPS）」に切り替えていくべきであるが、方針を問う。

(1) すでに国の中央省庁のほとんど、埼玉県、自治体においてもPPSから電力を購入する団体が増えている。これによって東京電力の電力需要を節減しつつ、電力自由化の促進にも資するものである。東電の“高い電力価格”の引き下げにもつながると期待されている。

入札による年間契約を行うことで、久喜市財政における電気料金の削減効果も大きいと考えられるが、見解を伺う。

(2) PPSからの電力購入には一定の条件を満たさなければならないが、久喜市の庁舎、公共施設、学校などで切り替えることができる施設をあげていただきたい。

(3) これまで東電とは特に「年間の電力購入契約」などを行わずに電力の提供を受けているので、PPSへの切り替えは年度途中からでも可能である。可能な施設から入札を実施して、早期に切り替えを進めるべきである。

2 3・11東日本大震災直後における、災害時要援護者の安否確認と救援（支援）活動の成果と課題を整理されたい。

(1) 市役所介護福祉課、障がい者福祉課などの各担当課において、高齢者、障害者などの登録されている要援護者について、安否確認をどのように行ったか、明らかにされたい。

それぞれの登録件数（人数）、連絡した件数（人数）、確認できた件数（人数）、確認で

きなかった件数（人数）、当日または翌日の確認、どのようなルートで、どのような方法（訪問・電話）で安否確認を行ったか。

- (2) 登録されている中で、連絡できなかったケース、安否確認ができなかったケースはどれくらいあったか。
- (3) 要援護者について、避難、救援等の支援を行った件数（人数）をどう把握しているか。
- (4) 民生委員に依頼した件数（人数）と、その安否確認の結果はどうか。民生委員からの報告はどのように受けているか。さらに、社協や各事業所においても独自に安否確認活動を行っているが、それらの実態と安否確認の結果をどのように把握しているか。
- (5) 今回の大震災における要援護者安否確認活動の成果と、今後に向けた課題をどう考えるか。
- (6) 要援護者の安否確認をすすめるために、今後、市役所の担当課で集約する仕組み（ネットワーク化）が必要であると考え、見解を伺う。

### 3 原発震災による放射能の拡散に対して、今後の対応方針を明らかにされたい。

- (1) 久喜市内の学校、幼稚園、保育園、公園等の放射線濃度、および水道水の放射性物質濃度の測定を早期に実施し、市のホームページに公表したことを評価する。今後、これらの放射線濃度および放射性物質の濃度測定を定期的実施して、その変化を注視していくべきであるが、方針を伺う。

その際、放射能測定機を保有している久喜地区消防組合本部と協力または測定機を借りて、測定体制を強化充実するよう検討・協議すべきであるが、いかがか。

- (2) 特に学校や保育園等の土壌や砂場の放射性物質検査を実施すべきであるが、方針を伺う。
- (3) 今年は特別な事態であることから、学校プールの清掃については、教育委員会において一定の配慮をされたことを評価する。今後、除草作業については、草刈り機などによって行う方法を検討すべきだと考えるが、考え方を伺う。
- (4) 今後、事態の進展によって、久喜市における放射線濃度が上がった場合に、その時々状況に応じて、各学校や保育園などでどのような対応を取るか、検討しておくべきであるが、いかがか。

### 4 住宅用太陽光発電システムの設置費補助制度の拡充を図るべきである。

- (1) 合併前の市町と、昨年度の申請件数と補助実績（金額・件数）を明らかにされたい。
- (2) 補助金は先着順で、「予算が無くなり次第終了」となっているが、必要であれば補助金の増額を検討すべきではないか。

### 5 家庭の雨水貯留施設設置に対して補助制度を創設すべきであるが、見解を伺う。

雨水利用の促進、都市型水害の防止などの観点から、特に埼玉県東部地区ではほとんどの市町で雨水貯留設備に対する補助制度を実施している。久喜市においても早期に実現するべきと考えるが、いかがか。

### 6 市役所本庁舎の階段に手すりを設置するべきである。

- (1) 「節電」と「健康のため」に、市職員にもお客さま（市民）にも、議員にも、階段の使用を呼びかけている。また1台のエレベーターは常時止めていて不便な状態にしているが、それならば階段を利用しやすい条件を整えていただきたい。

中央階段、北、南の非常階段にも、両側に手すりを設置するべきである。

- (2) 特に非常の際には階段を使って下りてくることになる。一般の人だけでなく、身体の不自由な人にとっては、手すりがないのは“不便”なばかりでなく危険ですらある。すぐに設置を進めるべきだが、いかがか。

#### ④ 鎌田忠保 議員

##### 1 防災行政無線について。

- (1) 2月頃防災行政無線の工事を行ったようだが、その後放送が聞き取りづらくなったが原因はなにか。
- (2) 昼の12時の放送を中止した理由は。
- (3) 小学校の下校時の放送をやめた理由は。

##### 2 工事入札指名について

各課担当の工事発注を指名競争入札で行っているが、ランク付けされた同等の登録業者でも、指名回数があまりにもバラつきがあるがどのように指名業者の選定をするのか伺う。

#### ⑤ 宮崎利造 議員

##### 1 通学路の安全対策について。

近年全国で学童、生徒の登下校時に通学路における車による痛ましい事故が多発しているが、久喜市は通学路の安全対策をどのように考え、対処しているか伺う。

- (1) 通学路の指定は教育委員会（学校）が現地を踏査して指定していると思うが通学路に問題点が見つかった場合、関係各課との調整はどのように行っているのか伺う。
- (2) 道路担当課は通学路上の問題点を相談された場合、どのように対処しているのか伺う。
- (3) 通学路上の交通標識や側線マーキング（グリーンベルト）横断標示等の設置について担当課は相談を受けた時どのように対処しているのか伺う。

##### 2 市道久喜7063号線の拡幅整備計画について伺う。

この道路は市内野久喜、古久喜地区の生徒達が学校に通う通学路に指定されているが現場は幅員が狭く（現況巾2.3m位）又片側が天王新堀のため車が来ると生徒達は非常に危険な状態になっている。早急に拡幅改良してほしいが市の考え（対策）を伺う。

## ⑥ 大 鹿 良 夫 議 員

### 1 放課後こども教室について。

児童の健全な育成のために放課後こども教室を推進しているが伺う。

- (1) 学校応援団や放課後児童健全育成事業（学童クラブ）との調整について。
- (2) 放課後こども教室を進めるにあたり、子ども会・スポーツ少年団や地域関係者との調整について。

### 2 緊急時通報システムの利用状況と今後の普及について。

- (1) 東日本大震災や台風・ゲリラ豪雨などでの対応について。
- (2) 市内の設置台数と普及について。

## ⑦ 足 立 清 議 員

### 1 青毛堀川の先行取得した用地を調整池とする機能と、周辺整備について。

- (1) 現在青毛堀川の先行取得用地を調整池とする事業が進められている。事業概要と取水機能効果及び工期について確認したい。
- (2) 事業計画では、青毛堀川に沿った既存の道路は残し、新たに新設道路を築造している。そこで、既存の道路は本流開設時まで残す計画となっているが、本事業推進まで遊歩道もしくはポケット公園とした整備をしては如何か市の見解を伺う。

### 2 総合支所の役割分担と災害時における位置付けについて。

- (1) 総合支所は「住民が利用しやすく、わかりやすい組織・機構」、「住民の声を適正に反映することが出来る組織・機構」また、「住民サービス提供の総合行政機関」であることが求められる。そのためには、本庁で企画された施策事業と地域に根ざした企画立案の両面を併せ持った総合支所であるためにも、本庁と総合支所間の連携が非常に大事であるが、合併後に於ける総括を伺う。
- (2) 災害時における総合支所の位置付けについて確認にしておきたい。今回の地震の際の総合支所の対応について、一部市民から戸惑いと不安を感じたとの意見があるが、災害時の総合支所のあり方を市民に知らせるべきだが市の見解を伺う。
- (3) 災害時における市防災倉庫の利用と管理について。地域自主防災会及び行政区、また避難所設置場所管理者に防災倉庫の管理等を明確にすべきだが市の考えを伺う。
- (4) 地域防災組織や行政区との連携に無線機やトランシーバーなどの整備をすべきと思うが市の考えを伺う。

- 3 東鷺宮駅東西連絡通路のバリアフリー化調査の結果と実施方針について。
- (1) 東鷺宮駅橋上化及び東西連絡通路のバリアフリー化の調査結果が本年3月までにまとめられていると思うが、橋上化は変則的形態から新駅設置より費用面において増大するとの見解が示されている事から、調査結果に基づく方向性を示すべきと思うが市の考えを伺う。
  - (2) 東西連絡通路のバリアフリー化に伴う基本設計方針は。
  - (3) バリアフリー化に伴う予算措置概要は。
  - (4) 東西連絡通路改修事業に合わせ、通路壁面を利用した有料PRパネルの設置や市キャラクターの表示など、有効利用すべきと提案するが市の考えを伺う。
- 4 信号機の設置と通学路の整備について。
- (1) 県道幸手加須線のダイソー前、鷺宮温水プール入り口に手押し信号機の設置を。
  - (2) 県道幸手加須線の鷺宮3丁目交差点に右折車線はあるが、死亡事故も発生している事から、右折専用信号の設置をすべきだが市の考えを伺う。
  - (3) 鷺宮中学校通学路となっている、サンクスから鷺宮第一浄水場までの一部水田区間は車道面しかなく全く危険な状況である。歩道部分を確保するなど早急な対策が必要だが、市の対応について伺う。

## 【第4日目 6月14日（火）】

### ① 大谷和子 議員

1 災害や緊急時における対応について。

(1) 児童・生徒の帰宅について。(迎えにきて引き渡すのか、集団下校するのか)各校の対応と今後の取り組みについて。

(2) 災害などの緊急時の初動対応や応急的な措置など、総合支所内の協力体制と本庁との連携は。

また、夜間・休日等の時間外における態勢整備について。

(3) 職員の意識、姿勢はどうだったか。

2 学校の暑さ対策について。

緑のカーテンを全ての学校・教室にかける事ができることが理想であるが、難しい側面があるのではないか。教室の暑さ対策として、農業用遮光ネットを利用する取り組みができないか。

3 学校の適正規模について。

教育活動、学校運営面から総合的にとらえ、小学校では、1学年複数の学級を編成できる規模、中学校では、教科担任制及び部活動等の関係から、ある程度大きな集団規模が必要であると考えますが、現在の久喜市内の学校の現状はどうか。また教育委員会は学校の適正規模をどの様に考えているか。

### ② 園部茂雄 議員

1 地元企業の育成と保護について。

久喜市産業懇話会が結成され、久喜市と防災協定を結び市民の安全とくらしを守る重要な役割を担っている。

その地元業者が連携し技術力の向上と協力体制を強化し、久喜市と災害協定を結んでいる。

今回の東日本大震災に於いても、市内の被害状況に深夜を問わず地元業者が復旧作業を行い、市民生活の安全を守っていることは、大いに評価し、敬意を表すべきである。

地方では地元企業が疲弊し、重機を手放し、除雪作業が滞り市民生活に大きな影響を及ぼし、除雪機を県が保有し、職員が行う、また、機械を提供し作業を企業に委託するなど、地方の企業は厳しい状況がある。

田中市長は、この様な状況を踏まえ地元企業の育成と保護についてどのように考えるか伺う。

## 2 市内特産品や市内企業のアピールについて。

久喜市は合併して多くの企業を有する市として、市役所や総合支所等に、地元特産品は展示されているが、現状に合っていないと感じる。

そこで地元特産品や地元企業をアピールする上で、庁舎ロビー等に展示コーナーを設け、来庁する市民にアピールする展示方法に変えたり、総合支所を順番に展示したり、もっと地元商品のアピールと育成を兼ねて、市としても積極的に取り組むべきと思う。そこで以下の点について伺う。

- (1) 庁舎ロビー等に展示コーナーを来庁者に見えるようにすべきである。
- (2) HP等で市内企業の紹介コーナーを作り、企業アピールすべきである。

## 3 自主防災組織と自主防災リーダーの育成について。

自主防災組織と自主防災リーダーの育成は、市民の災害に関心が高い今が各地域で結成するチャンスであり、市内でも自主防災組織が活躍した地域もあった。

市として積極的に広報し、自主防災組織の結成と自主防災リーダーの育成に取り組むべき。そこで以下について伺う。

- (1) 東日本大震災以降の自主防災組織の必要性を多くの市民も認識し変化したと思うが、市の今後の取り組みについて伺う。
- (2) 自主防災リーダーの育成について、早急に講習会等を行い育成すべきと思うが、今後の取り組みを伺う。

## 4 土地利用計画について伺う。

久喜市は合併後の将来ビジョンとして圏央道を生かした産業と農業の文化田園都市を目指すとしているが、新たな産業誘致、市街地調整区域の見直し、調整区域の土地利用について市の考えを伺う。

- (1) 国道122号と県道78号線沿いの土地について圏央道を活かした物流拠点として魅力ある地域と考えるが、この地域を活かした将来ビジョンを伺う。
- (2) 市街化調整区域でも、道路、上下水道（本下水）、ガス、電気のライフラインが整備された土地については、土地の用途種目を改め、家が建てられるようにして、活用を図るべきではないかと思う。そこで市街化区域の見直し等も含め検討すべきと考えるが市の考えを伺う。

## 5 市営温水プールの営業時間の見直しについて。

現在、菖蒲、鷺宮の市営温水プールは夜間の部が5時から8時までの営業で、仕事帰りに利用しようとする市民からは、平日の利用が困難で、1時間遅い白岡町B&G海洋センターを利用するとの声を聞いた。

仕事を持つ市民の多くは平日の利用は困難な状況であり、サマータイム制を取る企業もあり、アフター5の有効利用として市営温水プール施設を、より多くの市民が利用しやすい時間に変更することも市民サービスであり、ひいては市民の健康増進に繋がると思うので以下の点について伺う。

- (1) 菖蒲温水プール、鷺宮温水プールの利用状況から現在の時間が適正と考えるか伺う。
- (2) 温水プールの営業時間を市民の利用しやすい時間帯に見直しを検討すべきだが伺う。

### ③ 鈴木 精一 議員

#### 1 地域防災計画（地震）について。

東日本大震災は、これまでの防災計画の常識を大きく覆すものであった。この地震を受け各地の地域防災計画は再点検されることになる。本市の防災計画は阪神大震災の経験を生かしたもののだが見直しが必要ではないか。以下伺う。

- (1) 今回、地域防災計画を見直している。東日本大震災の経験をどこにどう生かすのか。
- (2) 今回の震災により断層地層の確率が高まった。関東平野北西縁断層帯の再検討は。
- (3) 県の防災計画から消えた久喜断層。市民の不安材料を払拭するため存否を明確にすべき。
- (4) 市内液状化マップを作成すべき。

#### 2 被災地への職員派遣について。

被災地を支援すべく、多くの自治体が職員派遣を行っている。現役職員の派遣は、被災地復興に大きな力になる。また、派遣する自治体でもいざ災害時に対応できる知識と経験を積むことができる。積極的な職員派遣を考えていくべき。

#### 3 原発による農業被害について。

近県で原発による農業被害が相次いでいる。農業被害は放射能による実害だけでなく、関連する風評被害も報告されている。これが市内に及ぶ可能性は常にあるだけに、万全の準備が必要だ。以下、伺う。

- (1) これまでどんな報告があるか。市内、近隣。
- (2) 数値の検査はどのように行っているか。公表していくべきだが。
- (3) 実害・風評被害の対策。損害が生じたときの農家補償は。

#### 4 空き家条例について

空き家が放置され、管理不全による苦情が増加している。生活環境の保全や防犯の街づくりの推進からも空き家条例の制定が必要だ。以下、伺う。

- (1) 空き家の実態を、生活環境の保全や防犯のまちづくりの視点からどう見ているか。
- (2) 県内、空き家条例制定の動き。
- (3) 空き家条例を制定すべき。

### ④ 青木 信男 議員

#### 1 道路整備計画と交通安全対策について。

- (1) 菖蒲地区旧122号線は23年3月末で市道管理と言う説明であった。23年5月中旬に県道5号線の標示が、上中島交差点に突然標示された加須市鴻荃～上中島交差点までと聞かすが、上中島交差点から東側、春日部菖蒲線・台交差点～122号バイパスまでの旧道の取り扱いについて説明を求める。

(2) 上中島交差点の横断歩道やセンターラインの路面標示の整備と上中島交差点～122号まで開通見通しの時期について伺う。

(3) 久喜市道菖蒲7号線（みさき公園）の新設道路。

1844号線T字路交差点の信号機の設置の見通しは。

2 菖蒲総合支所及び他の総合支所の有効利用について。

(1) 菖蒲総合支所は3階に空室がみられる。社協やシルバー人材センター菖蒲事務所が見沼館を事務所として利用しているが3階を利用してはどうか。また、菖蒲町歴史資料館の設置は出来ないのか伺う。

(2) 多くの議員が総合支所の有効利用を提案しているが各支所の利用方法がいかされているのか伺う。

3 久喜市の環境 平成22年版・No.23について。

第1節 久喜市の概要P3に埼玉県北東部に位置し、面積は82.4km<sup>2</sup>です。…久喜菖蒲工業団地 清久工業団地の造成などが進められ県東部の拠点都市として発展を続けていますと示されているが、その表現方法について伺う。

## ⑤ 並木隆一 議員

1 東日本大震災に対して、久喜市の対応について。

(1) 震災避難者や帰宅困難者への対応は、迅速かつ適正であったか。

(2) 被災地への久喜市の人的支援と物的支援は。

(3) 久喜市内の被災者や被災住宅への支援は。

(4) 現行の防災計画のマニュアルの改善点は。

(5) 情報収集・発信等の通信手段の確保は十分であったか。

(6) 震災後の市歳入への影響は。

2 今後予測される災害への備えについて。

(1) 策定中の「総合振興計画」「都市計画マスタープラン」等に、この大震災の教訓を活かすべきと考えるが。

(2) 想定を超える災害が発生した場合に、現行法や法制度との調整は。

(3) 非常時を想定した市職員の体制は。

(4) 非常時に耐える市財政の構築を（災害対策基金等の創設を）。

(5) 災害に強いまちづくりか、災害復旧に即応できるまちづくりか。

(6) 公共施設に、災害対策用のスペースの必要性は（仮設トイレ・調理室・自家発電装置等）。

- 3 策定中の久喜市地域防災計画について。
- (1) 地震対策と水害（洪水）対策の違いについて。
    - ア 住民の避難場所等への対応の違いは。
    - イ 利根川堤防強化事業で造成予定の、栗橋地区・防災公園の機能及び位置付けは。
  - (2) 支援組織の活動拠点の確保は（自衛隊・消防・警察・応援自治体・ボランティア団体等）。
  - (3) 久喜市内の各団体等との協力体制の構築を。
  - (4) 防災備蓄品の品目・量の見直しは。
  - (5) 大量にがれき等が発生した場合の対処は。

## ⑥ 鈴木松蔵 議員

- 1 災害対策について。
- 外国人への避難等の指示や周知は、やさしい日本語、簡潔な日本語ですべきと考えるが見解を伺う。
- 2 庁舎内における用語について。
- 「information」という語を適切な日本語に言いかえるべきと考えるが見解を伺う。

## ⑦ 上條哲弘 議員

- 1 防災体制について。
- (1) 東日本大震災時の市内の電話状況について。
    - ア 固定・携帯電話の状況。
    - イ 災害対策本部と各支所間及び避難所との連絡手段。
    - ウ 衛星携帯電話の有無。
  - (2) 防災倉庫の備蓄品について。
    - 震災後の備蓄品の備蓄状況。
- 2 農業政策について。
- Gopan（ゴパン）の助成制度について。